



路 政 僧

に訴へても尙之を敢行せむとす、政治を中心として醜聞亦極まれり可評。

政宣の協定、營業收益税を委讓し、夫れに依る財源の補填を租税の改正と行政整理に依らむとす、税制を改正して富者に重く中産階級以下に軽く課税して更に富者の新負擔を目論む、固より何人も異論なきところ、是れ位のは政友會と雖始めより判つてゐるべき筈、今之を新に聲明するのは矢張り代議士三名を得たさの遣り繰り、實業同志會にしても夫れ以外の政策を掲げて國民に高調した筈、他の政策は後日の協議やら努力乃至は調査研究の言葉に依つて世間を欺瞞せむとす、政友會に降服したと評せらるゝも亦辯解の辭無

を基調とする立憲制度の弊か、夫れも二大政黨の罪か、兎に角我が政界を不淨ならしめたるを恨む。

見給へ、頭數を維持し、より多く之を獲取せむとする爲に兩黨の採つた手段を、曰く政宣の協定、中立議員の抱き込み、反對黨議員の切崩し、自黨議員の讒詰、等々昭和新政に許すべからざる事のみ、甚敷に至つては暴力

特別議會開會、普選實施後に於ける初議會、國民は此新興勢力に期待し其の行動は吾人の特に重視したるをこそ、然るに何ぞ圖らむ、均勢を持つる朝野兩黨に介在して少數者たる明政會乃至中立の横暴、國民の總意は遂に彼等少數者によつて顛弄さる、多數決

▽
△

かるべし、沈思し給へ、一部の國民を欺いた悪報は觀面、武藤會長の福井入りが之を立證してゐる、之に依つて國家の政策は時代に相應しなければならぬことも判つた筈、徒に人氣に走つて純理論を高調し、小黨を組織せむとする謀反は此際之を捨て、政友會に合併するが可、亦夫れが武藤一派の生きる途、更に再考を求む、同時に政友會の連中にも勸告する、代議士三名ほしさの協定と言はるゝのが厭なり、假令積極的政策を抑壓される結果になつても、協定事項を實行せよ、然らば忌むべき妥協でも、時に或は社會政策的効果を收めむ。

中立議員の抱き込み、朝野兩黨とも露骨に之を敢行して耻する所なし、自

ら天下の大政黨を稱するもの、独自の方針を以て邁進し得ず、從來の聲明も公約も無視して右顧左眄、唯だ無定見に集まつたゞけの明政會に九拜して唯だ其の命を聴き、二三中立の鼻息を窺ふに汲々たる醜狀、惡むよりは寧ろ憐むに堪へたり。

見給へ、兩黨とも二百餘頭を抱擁しながら、政治經濟思想國難ごやらの書生論的決議案に就て、政界より既に忘れられむとする一罌堂が、再解散は非なり倒閣運動も亦非なり、政黨は政權爭奪を中止して平和靜穩の裡に御大典を迎へる準備を爲せし、勝手氣儘な熱を擧げ、兩黨の態度を扱き下しても、尙一人として之に結抗する者の在らざる、何たる不甲斐なきことぞや、國難

來、夫れ程の大問題では無い、名符を羅列して誇大に事を構へ、傾ける罌堂をして政治的に利用せしめたるを惡むと共に、二大政黨の存否を疑ふ、政治的國難に關して議決するに先ち、罌堂一派は勿論のこゝ政治家乃至政黨は自省するが可い、夫れが國難芟除の第一歩。

反對黨議員の切崩し、人工病、棄權乃至は行衛不明の手段に訴へて行はる、不公明なる魔手に依つて迄野望を遂げむとする陋、斷じて不許、抱込に應じた變節漢、次期の選舉に懲罰されるべきは當然、選舉民はこの事實を忘れてはならぬ、併しながら自由意思は勿論其の行動迄も束縛された、民政黨議員よりは或は意思の自由なる點に

於て勝れるかも知らぬ、自己黨員の自由を蹂躪して温泉や汽車に監禁して迄我が黨の結束一糸亂れず高調する民政黨、議員を蔑視し自ら政黨の權威を輕んずるもの、政府與黨の採つた抱き込みを難するに先ちて反省す可い。

此くして國民の期待は總てを裏切られた、之も證し詰むれば餘りに政權に執着するに依る、換言すれば二大政黨の罪、假令政治的意見の實現が政黨の目的であるにしても、内閣を組織するに、夫ればかりが意見實現の手段では無い、兩黨も此事を忘れて相争ふが故に政界を不淨ならしめたる所以、眞に國政を思ふに在らば兩黨もモト少し自重するのが緊要。

政府が之に處した手段、停會に次ぐ

に停會を以てし、最後に再解散の太鼓を打つ、内閣を信任せずすれば内閣不信任案を提出すべく、内相彈劾に事よせて内閣の倒壊を陰謀するが故に停會したと説明す、何れの一黨も過半数を有せざるまき第一回の停會は可

いにしても、第二回の停會は意味が無い、是だけの理由で更に再解散は非立憲、唯だ弱腰議員威嚇の手段のみ、更に之を決行すれば政友會は自滅する必定、民政黨にしても絶対に相容れない政綱を持つる無産各派と連盟して、假令内閣を倒すことを得ても、その後に於ける政情に想倒せば思ひ半ばに過ぎるものがある筈、政友會と同じ不信を招く必定、卿等の時を得べきは目捷の間にある、今に及びて相容れざるもの

と道つれの要はない、吾人が反省を希望する所以、兩黨もよく判つたか。

▽ △

鈴木内相、第一第二の怪文書事件、

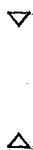
選舉干渉、議會否認の聲明等々、政界に問題を投じて内外に非難の聲が高い、怪文書乃至選舉干渉だつて、選舉事務を管掌する主務大臣としては、いつもの内閣が遣つたところ、併しながら之に依つて選舉に干渉することが正當と爲る譯ではないが、選舉に依つて我が第一黨たることを誇大せむとする野心に禍され、選舉第一主義なんて、普選の今日あるまじきことを言はるゝに至つた、詰り自分の手腕を示すに餘りに急であつた、夫れに加へて氏を支持

する連中が、檢察官出身多數を占め、地方警察に無經驗——無自覺であつたに依る、若し部下の人其の宜敷を得たならば、假令議會を否認した聲明で無にしても、世人をして夫れに疑を抱かしむるやうな聲明は爲さしめなかつた筈、詰り人を得なかつたの三人を信ずるここの厚い氏の善性格が、氏を誤らしむるに至つたもの可評。

怪文書、其の内容の眞否乃至善惡は別として、官の機密に屬する文書を、外部に漏洩せしむるやうな部下を信任したが爲に起つた問題、此く詮し詰むれば問題は詰らぬもの、唯だ時機が悪かつたに不過、腕の喜三郎と言はれたゞけ、喬木風多しの類か。

是に原因して内相の彈劾、若し夫れ

が通過すれば、やがて内閣の致命傷となりむ、併し内閣の總括的不信案を提出した民政黨が、夫れに矛盾する内相彈劾に走つて明政會の手先に使はれるかは疑問、若し夫れに合流すれば民政黨の聲價地に墜つべし、此後に於ける政界の動亂、蓋し見ものならむ。



昭和の御代に當り、國體を變革して勞農階級の獨裁政治を樹立し、共產主義社會の實現を企圖したる不逞の徒輩、我が皇土に潜在したるを悲む、首相ではないが國民の多數をして九腸寸斷の思に堪へざらしむ、政府は之に鑑み此種思想撲滅の爲俄に治警法の改正を企て、取締の爲に巨額の經費を要求

したる傳へらる、赤化の防止、固より國民の望むところ、併しながら是等の思想を嚴刑やら取締のみを以て根本的に芟除し得るものこそ考へたら夫れこそ間違、夫れで根底を壊滅し得るなら大問題ではない、歐洲諸國は既に爲し遂げてる筈、之を遂行し能はざるどころ他凶あり。

街頭を一瞥するが可い、働かむとするも業務なく、日夜働いても生活する能はざるものあるかと思へば、自動車を驅つて悠々美衣美食に耽るもの、いかに世は不平等と言つても、同じく生を此世に享けた人間としては餘りに程度が違ふ、茲に於て思想の悪化するのは當然、之を是れ改むるに非ずんば百の嚴罰、千手の取締も亦何の效かあら

む、此社會的缺陷を救済するには、社會平等の大原則に立脚して國民生活の安定を期するに在る、寧ろ取締に要求した巨額の經費を此方面に振向くるのが、危険思想撲滅の捷徑。

共產主義を基調とする結社を解散し、之を高調する學者を罷免して研究

團體を解散せしめた、固より當然事、

寧ろここの遅かりしを恨む、誰か言

ふ、之に依つて大學々園の自由を獨立

を毀損したと、併しいかに學術の研究

が自由であつても、其の自由に立脚し

て夫れを實現せむとするは自由の範圍

外に屬す、彼此混同してはならぬ、由

來大學は此自由を楯に警察權力の範圍

外に措かれた感があつた、今回の不祥

事件に連座した學生の帝大に多かつた

のも、亦夫れを物語るもの、今回の檢舉に依つて其の宿弊を一掃し、社會的常識を忘れて浮雲の如き空想を學問に心得た、所謂學者學生を戒飾し得れば、思はざりし餘得可評。



思想惡化に雁行して擡頭したのは暴

力團の横行、東京驛頭に於ける大山氏

の遭難、和歌山事件乃至は本所公會堂

に於ける警察官の暴行、等々次から

次へ繰返され、直接行動に依つて法治

國家を破壊せむとす、其の罪や共產主

義者の夫れと異なる所なし、暴力行爲に

對する取締の不十分不徹底、良民の不

安之に不過、當局の反省を求むるや切、

併し是等は尙黙過するもしても黙する

能はざるものは、警察官自身の暴行沙汰モーコーなつては世は夫れ暗黒か。



迷惑千萬なのは支那の戦争、各國不

戰條約を論議するも、皮肉にも内亂、

やはり野蠻國と云つてもいい、併し今

や春醜にして戦争には好時機、勝手に

戰ふのは可いとしても、在留邦人の生

命財産我國特殊利權に危害を加へるの

は困る、我國の出兵已むを得ざるに出

す、吾人は出兵を自衛上の正當手段と

し政府の出兵に賛す、之を難するも

の、近時表はれた南方派の我國に對け

る好意的態度に籍口して、居留民の危

害に對する特別防禦乃至特別保證は

南軍の聲明するところに任せと言ふ、

其の甚敷に至つては出兵費を以て居留民を引上げよと云ふ、前者は曩年の南京事件の苦い經驗を忘れて、無責任な

南方の聲明に乗るもの、後者は居留民の保護だけを知つて財産乃至は利權の保護を忘れたる反面觀のみ、固より出兵が日支親善に悪影響を來すのは判り切つたこゝ、併し之をのみ思つて遠く異郷にある邦人の受くる慘狀を默視するに忍びず、交戦團體か否か判らない彼れ南方を信用して、帝國民乃至は帝國々威を汚辱する如きは斷じて吾人の採らざるこゝろ、既に濟南に於て蔣軍の部下が慘殺を行つたでは無いか、支那のこゝこゝとして信する不能、我が出兵が北軍に利して南軍に不利であらうと、我の關するこゝろに非ず、自衛權

の行使、刻下の支那に對する正當手段、盲目的言論は慎むべし。

唯だ支那に教ゆべきは、いつ迄も内亂ばかりが能でない、列國の受くる損害を少しは考慮して國家の體面を知るが可い、探つた矛は今更收めるに由なければ徹底的に争つて、南か北か何れか一に統一するこゝこそ、人道上望むこゝろ。亦夫れが支那統治上最上の策。政府、山東出兵に反對した士官學校支那在學生の一部を退校處分に附す、之も亦當然事、我が出兵を以て支那内亂を助長すこゝ爲す如きは、其の分を知らざるもの、早く歸國して出兵の原因たる内亂の鎮定に力めよ。



消極政策を採つた時代に、既契約の補助でも打切るぞ、減額するぞと脅かされた國道改良工事、夫れでも細々とやつて來たが、此頃になつて漸く完了し、各地相踵で竣功の式典を擧げ、昭和の聖政に潤ふ、當時消極主義を謳歌高調した憲政會の連中でも、今更道路改良の効果を直感したやう、その豫算を繰越し削減した消極政策の誤つてゐた蒙を啓くを得たのを喜ぶ。

國民文化生活の進展を抑へて迄、消極的財政々策を採ること、夫れは畢竟國民經濟生活を萎靡不振に陥らしむる因と爲ることは、吾人が口を酸くして所論したところ、交通問題を忘れて國民の文化生活の向上やら社會政策を目論んでも駄目。